

はじめに

石川県は、高山帯を頂く白山から変化に富んだ長い海岸線を有する能登半島まで多様な自然環境を有しており、概して生物多様性が豊かといえます。中でも県土の約6割を占める里山は、そこで暮らす人々が手を入れ様々な形で活用することにより豊かな自然が維持されてきた地域であり、多くの生きものの生息地となってきました。古くから人々の生活と深くかかわってきた里海も、本県のいたるところに存在します。

しかしここ50年ほどの間に、都市部への産業や人口の集中と里山里海地域の過疎・高齢化が進み、里山の森林は放置され、水田では耕作が行われなくなるなど、里山里海は荒廃し、生物多様性の低下が見られるようになっていきます。

一方、私たちは、里山里海から食料や衣服の原料など様々な恵みを得ています。輪島塗や九谷焼など本県が誇る伝統工芸や文化も、このような里山里海の恵みによって育まれてきたものであり、本県の生物多様性の保全や地域経済、文化の発展にとって、里山里海の利用保全は極めて重要な課題です。

本県ではこれまでも、県民の皆さんにご理解をいただき、平成19年度に導入させていただいた「いしかわ森林環境税」による手入れ不足人工林の公益的機能の確保や、生物多様性に配慮した農地整備などに取り組んできました。また、企業や団体が行う里山里海の保全活動を県が認証する「いしかわ版里山づくりISO」制度を創設し、多様な主体の取組を促進する仕組みづくりなどにも取り組んでいるところです。

そしてさらに今後、里山里海に人の手を戻し活用することで、新たな魅力を創造し、その魅力がさらに人を呼び戻すという良い循環を形成する新しい里山づくりを進め、地域の振興を図ることが何よりも大切と考え、このたび里山里海の利用保全を中心に据えた「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定いたしました。

このビジョンでは、従来の自然保護の枠組にとらわれることなく、人々の生活や生業に関わる幅広い分野での取組を進めることとしており、また、県民の皆様が里山里海や生物多様性を分かりやすく知っていただくため、本県にゆかりの深い「トキ」をシンボルとし、トキが舞う里山里海を未来の世代へつなげることを目標としています。

今後、このビジョンを拠り所に、県民の皆様方や企業、団体など様々な方々と連携し、里山里海を持続可能な形で利用保全する取組を積極的に推進してまいりたいと考えており、このビジョンがこれから各地域で繰り広げられる様々な活動の羅針盤となることを期待いたします。

終わりに、本ビジョンの策定に貴重なご意見、ご提言を賜りました石川県生物多様性戦略ビジョン策定委員会の委員の方々をはじめとする関係各位に対し、心よりお礼を申し上げます。

平成23年3月
石川県知事 谷本 正憲